

## 地震発生時に、グループ各店の店舗別震度を「見える化」 セブン&アイが『災害対策マップシステム』を導入 ～12/3（月）、グループ7社にて運用開始～

株式会社セブン&アイ・ホールディングス（東京都千代田区、代表取締役社長 最高執行責任者<COO>：村田紀敏）は、大規模地震発生時にグループ各店の被害状況や影響範囲等をパソコン画面の地図上に表示させることで、被災状況を速やかに把握するとともに、店舗支援の迅速化を図る新たな危機管理システム『災害対策マップシステム』を12月3日（月）よりグループ各社に導入いたします。

2011年の「東日本大震災」発生直後の段階においては、「地震発生時の該当店舗の震度」「店舗対応の優先順位」「被災地のライフラインの状況」「交通機関の状況」等が不明確だったという課題を残しました。今回のシステムは、情報を一元化し同じ地図上で**全店舗を災害情報と合わせて管理**することで、災害時の店舗支援の迅速化を図ることを目的に、セブン&アイ・ホールディングスと株式会社ゼンリンとの共同開発により実現いたしました。

■導入日：2012年12月3日（月）

■導入会社：セブン-イレブン・ジャパン、イトーヨーカ堂、そごう・西武、セブン銀行、ヨークベニマル、セブンフードシステム、セブン&アイ・ホールディングス（グループ7社）

■導入システム：『災害対策マップシステム』（各社の危機管理部門等に専用ソフトがインストールされた専用パソコンを1～2台導入）

<『災害対策マップシステム』の主な機能等>

### 1.地域ごとの震度速報の表示

（財）気象業務支援センターの配信する地震情報を受信し、地図上に震度情報を表示。震度3以上の全国約180に区分した地域名と地震の発生時刻を表示。

**地震発生から1～3分程度で配信**

### 2.店舗情報の表示

地域ごとの震度情報と同じ画面上に、事業会社ごとの店舗位置にアイコンを表示。事業会社ごとに表示切り替えが可能。表示対象エリアの絞り込み（都道府県・市町村単位、および任意の範囲）が可能。

**地震発生から2～3分程度で配信**

### 3.観測地点ごとの震度速報の表示

観測地点（全国4,300地点）ごとの地震の発生場所（震源）や、規模（マグニチュード）の情報を表示。**地震発生から4～7分程度で配信**

### ★画面イメージ



震度情報画面

#### 4. 停電情報の表示

各店の停電情報をアイコンで表示。

セブン銀行ATMの状況による情報を地図上に表示

#### 5. 鉄道運行状況の表示

首都圏・東海地方の鉄道路線を表示。運行状況に応じて鉄道路線を色分け表示。

情報の一元化・共有化を目的にインターネット  
情報を入力。



鉄道運行情報画面

#### 6. 道路通行状況の表示

首都圏・東海地方の主要を表示。通行状況に応じて道路を色分け表示。

情報の一元化・共有化を目的に入力。



道路情報画面

#### 7. 火災・洪水情報の表示

火災や洪水等の災害情報を表示。災害の種類に応じて地図上にアイコンを表示。

情報の一元化・共有化を目的に行政からの  
情報を入力。



河川情報画面

#### 8. 河川情報の表示

首都圏・東海地方の主要な河川を表示。状況に応じて河川を色分けして表示。

情報の一元化・共有化を目的にマスコミからの  
情報を入力



災害地点からの同心円・多角形表示画面

#### 9. 災害地点からの同心円・多角形表示と店舗抽出

災害地点情報を登録し、地点から同心円または多角形で表示。同心円または多角形内に含まれる店舗を抽出することで、災害の影響度を把握することが可能。

情報の一元化・共有化を目的に情報を入力

セブン&アイ・ホールディングス ホームページはこちら

<http://www.7andi.com/>

以上